

公益社団法人 日本技術士会栃木県支部
平成 30 年度 第 7 回年次大会・講演会・新合格者歓迎会・懇親会次第

日 時：平成 30 年 6 月 9 日（土）

13：30～18：30

場 所：ニューみくら TEL028(622)1093

I. 年次大会 13：30～14：50

1. 開 会
2. 支部長挨拶
3. 報告事項
 - ① 平成 29 年度事業経過報告
 - ② 平成 29 年度収支実績報告及び監査報告
 - ③ 平成 30 年度活動方針について
 - ④ 平成 30 年度委員会事業計画（案）
 - ⑤ 平成 30 年度栃木県支部収支予算計画（案）
4. 事務連絡
5. 閉 会

II. 記念講演会 15：00～16：10

演 題：『栃木県の産業政策について』

講 師：栃木県 産業労働観光部

部長 茂呂 和巳様

III. 懇親会 16：30～18：30

1. 開 会
2. 支部長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 乾 杯
5. 新技術士合格者紹介
6. 閉 会

平成 29 年度 事業経過報告（概要）

公益社団法人日本技術士会栃木県支部は、発足してから 6 年が経過しました。その間、初代菅井支部長、二代目黒支部長の指導の下、幹事及び会員皆様の努力により、着実な活動を実践してきた。

H29 年度は、次に挙げる方針をもとに組織運営を行い、ほぼ当初計画の事業を行うことができた。

- ① “会員の顔が見える会”をモットーに、会員の交流・資質の向上を図る。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”を目指した活動を展開する。
- ③ 産学官の連携を図りながら業務の拡大とともに技術士の知名度や委託業務の質の向上を図る。

以下、平成 29 年度の各委員会の活動概要を報告する。

《各委員会報告》

1. **総務委員会**：年次大会・講演会・報告会を開催した。併せて、会員・準会員の増加対策として、新合格者に対する歓迎会を行った。県支部情報が確実に伝達できるよう会員名簿及びメールリングリストを整備した。
2. **企画・研修委員会**：NEXCO 東日本バイオマス発電見学会（平成 29 年 9 月 21 日）参加者 13 名、科学技術講演会「“IoT にものづくり中小企業はどう立ち向かうか”」（産業技術総合研究所名誉リサーチャー、工博森和男氏）平成 29 年 11 月 18 日（土）参加者 45 名、12 月期講演会「明日の県土づくりー土木行政の立場からー」（とちぎ建設技術センター理事長印南洋之氏）参加者 33 名、技術士を志す方への情報提供講座（平成 30 年 2 月 21 日）参加者 30 名。
3. **企業支援委員会**：金融機関の企業融資にかかわる事業性評価について評価案を作成した。平成 29 年度ものづくり支援事業（4 名）、フードイノベーション栃木（1 名）、サポートユアビジネス（1 名）の評価委員を派遣した。宇都宮大学主催の宇都宮大学企業交流会（H29/9 月）にブース出展し、技術士 PR を実施した。
4. **広報委員会**：県支部の会報 11 号（H29/8 月）、12 号（H30/1 月）の発刊、さらに県支部ホームページの運営をおこなった。また、会員や関連団体への広報活動と会員拡大の情報提供を発信した。技術士の知名度を上げるために、まちびあ主催の活動報告会および理科教室での技術士資格の PR を行った。
5. **国際委員会**：2009 年技術交流の覚書を結んだ浙江省対外科技交流中心は「桜サイエンス事業」として曾団長以下 15 名が 11 月 19 日から 25 日まで来県した。団一行は 21 日本県赤松副知事を訪問すると共に、同行した中小企業経営者等 24 名も一緒に宇都宮大学や県内企業等を視察した。
8 月には新たに浙江同済科技職業学院との技術交流を始めるため事前調整として 3 名が訪中した。H30 年 3 月には黒須支部長以下 4 名が訪中し学院と覚書を調印した。第 47 回日韓技術士会議（釜山大会）には 2 名が参加した。
6. **地域企業支援小委員会**：関東経済産業局 主催のものづくり補助金制度説明会に出席し、詳細情報を会員や関連企業に PR し、制度の活用を推奨し、関連する付帯業務を所管する団体から委託され協力した。
7. **地域支援小委員会**：フードバレーとちぎ推進協議会に参画、余笹川流域連携ネットワーク活動（H29/9）に参加した。
8. **環境支援小委員会**：エコテック&ライフとちぎ 2017（H29/11 月）に参加出展した。サイエンスカフェ（理科教育の一環）小中学校理科教育支援として（H29/5 フェスタ my 宇都宮、H29/9 エンジョイカガク帝京大、H29/10 まちびあ祭り）に参加した。環境見学会を 6 月と 9 月に開催した。地域発展研究の為の「市貝プロジェクト」活動を展開した。
9. **本部関連**：本部支部の連携を密にするため 8 県支部連絡会が定例的に開催され支部長・副支部長が出席した。

以上

公益社団法人日本技術士会栃木県支部平成 30 年度活動方針について

支部長 黒須重富

栃木県支部は発足して 6 年が経過しました。この間、初代菅井支部長、二代目小黒支部長の指導の下に、幹事及び会員の皆様のご努力により、着実な支部活動を実践して参りました。今年度は、これまでの実績を踏まえながら、本部や関東 8 県支部と連携して、以下のことを基本方針として栃木らしい支部活を展開して参ります。

I. 公益社団法人日本技術士会の目的に沿った支部活動の展開

本支部は、技術士の品位の保持、資質の向上及び業務の進歩改善を図るため、技術士の研修並びに会員の指導及び連絡に関する事務等の業務を行い、もって科学技術の向上及び国民経済の発展並びに国際交流の推進に寄与し、更には広く社会に貢献する支部活動を展開する。

II. 県支部の基本方針

- ① 栃木県支部活動 6 年間の実績を踏まえ、“会員の顔が見える会”をモットーに、会員の拡大による支部の強化とともに、会員及び協賛団体のための CPD 講座、見学会、研修会を充実させる。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”となるよう市町等が抱える課題に対して社会貢献活動を展開する。特に、市貝プロジェクトや宇都宮市・帝京大学等での理科教育活動に尽力することで、地域社会と架け橋になるモデルとしたい。
- ③ 中小企業を支援する業務の拡大を図る。そのために、金融機関や企業をサポートする各関係機関等の窓口、技術士業務の案内や具体的支援内容紹介などの働きかけを行うとともに、依頼された業務の質の向上に努める。
- ④ 中国浙江省対外科技交流中心とは、引き続き技術交流を深め、具体的な成果に結び付ける。
- ⑤ 以上の方針に沿って活動しやすい支部組織となるよう、今年一年を掛け、従来の委員会を見直して、新たな委員会を設置したい。
- ⑥ 幹事は Speedy(スピード感)、Strategic(戦略性)、Sensitive(感受性)、with Smile(笑顔) の 4S を心がけ、本会の活性化に努める。

以 上